



数字で見るセカンドハーベスト名古屋2017

提供した合計食数(換算数)



個人や企業から寄付いただいた食品を食数に換算すると、1,424,289食にも相当します。

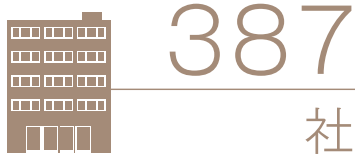
※すべての寄付重量から、飲料・水を除き1人が1日生存するのに必要な量から算出

ボランティア活動時間



私たちの活動はボランティアスタッフに支えられています。食品の引き取りや仕分け、個人への食品の箱詰め作業など 想いを込めて活動いただいています。

食品寄付企業・団体数(累計)



2008年の活動開始から、累計で387社の企業・団体から食品寄付をいただきました (2017年11月時点)

食品支援の仕組み 自治体連携率



東海3県で行っている行政と連携した個人への食品支援の取り組みは、自治体との連携率が95%になりました。(2017年11月時点)

食品を「集める」取り組み



食品取扱量

年間約 **450** トン

2017年度は企業・団体や個人から寄付いただいた食品約450トンが必要とされる方々にお届けしました。昨年度の400トンより50トン増え、寄付いただいた企業・団体数も昨年度より30社増の170社となりました。



2017年には、冷凍・冷蔵庫を新たに1台ずつ購入し、冷凍・冷蔵品の取り扱いが増えました。特に肉や

取り扱っている冷蔵食品の一部 魚、乳製品などニーズが非常に高かった栄養価に優れた食品を多く取り扱えるようになりました。

食品を「届ける」取り組み



団体支援事業

年間約 **200** 団体

2017年度は主に東海地方にある約200団体へ食品を提供しました。

配布先の団体は、例えばホームレス支援団体や母子生活支援施設、障害者支援施設、児童養護施設など多岐に渡ります。それらの団体では、支援対象の方々へ食事を毎日提供している場合があり、そこでの食事に2HNから提供した食品を利用いただいています。それによって、食事の質的向上や食費の削減につながっています。(実際の利用例は p.3のパートナー団体紹介をご覧ください。)

CONTENTS

2017年度実績……	p.1~2	パートナー団体紹介……	p.3
ボランティアインタビュー……	p.4		

ボランティア インタビュー



私たちの活動は20~70代のボランティア約30名により支えられています。今回はご自身でも東日本大震災の被災地へ野菜や卵などの食品を届ける活動をされているボランティアの松岡さんにインタビューしました。

Q：フードバンクを最初に知ったきっかけは何ですか？

ある若い男の子から教えてもらいました。元々その子は東日本大震災被災地へ規格外野菜を届ける活動をしていて、その活動が新聞で紹介されたのを見てカミナリが落ちました。「自分がやりたいことはコレだ!」と。

松岡さん

すぐに仲良くなった私たちは色々な話をするなかで、同じように規格外の食品を扱うこの団体を教えてもらいました。

Q：実際に活動に参加し始めたきっかけを教えてください？

自分の仕事が落ち着いたので、ようやく来ることができました。活動を知ってからしばらくは来られなかったのですが、ずっと参加したいと思っ

てました。

Q：この団体では普段どんな活動をしていますか？

市場や物流センターへ車で食品を引き取りに行き、仕分ける作業をやっていきます。パンのにおい、野菜のにおい、お米の重さを感じると幸せになります。

Q：活動の中でやりがいを感じるのはどんな時ですか？

食品を引き取りに行った際や、私たちの団体の倉庫に食品が並んでいるのを見た時です。この食べ物が無駄にならずに済み、誰かに食べてもらえて、そして誰かを笑顔にする。そんな想像をして

幸せを感じています。やっぱり誰かに笑っていて欲しいんだと思います。

Q：活動の魅力は何ですか？

この活動は誰に何をしているのかがわかりやすいことです。それは食品を実際に使っている福祉施設や団体へ見学に行った際に、提供した食品を美味しそうに食べている様子を見ると特に感じます。

またボランティア活動を通じ色々な人と出会い、全く違う世界にいた人の話を聞くことができるのもとっても面白いです。

寄付いただいた食品を必要とする人へ届けるためには、倉庫代や配送費などの費用が必要です。

私たちセカンドハーベスト名古屋の活動は、食品だけではなく活動資金も企業・個人からの寄付により成り立っています。皆様のあたたかいご支援よろしくお願いたします。いただきました寄付金は、生活に困っている個人や福祉団体へ食品を届けるために使わせていただきます。

銀行
振込

三